

# ローヤルニュース

No.154

発行 ローヤル油機株式会社 2007年元旦

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4 TEL.0246-32-6657 FAX.0246-32-6658

Eメールアドレス GSP00013@nifty.com

HPアドレス <http://homepage1.nifty.com/loyal/>

## 謹賀新年

旧年中は、格別のお引き立てを賜りありがとうございました。  
本年も、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 佐藤忠義

下館物語 13

黒塗りの蒸気機関車は、ブリキで作られていたが、とても精巧に仕上げられていてずっしりとした重量感が手に伝わってきた。

太い胴体の上にある丸い煙突からは、今にも白い煙が吐き出され「ポーツ」という汽笛とともに、「シュッシュッ」という蒸気の音が響いてきそうだった。蒸気力は、左右のピストンを動かし、コンロッドによって三つの大きな車輪を動かす。やがて、大車輪がゆっくり回りだし、連結したたくさん車両を引っ張りながら機関車は力強く動き出す。

私は、オモチャの機関車を動かしながら、夢を見ていた。

終戦後間もないころのことだった。住まいが、四ツ倉駅の斜め前にあっただけいかに、私たちが子供の遊び場はいつも駅舎の中だった。

大きな機関車が、進駐軍のジープや戦車を載せた貨車を何十台も連結し、重そうに引っ張る姿を何度も見ていた。それらの車両には、見たこともない白人や黒人の大きな姿の兵士が乗っていた。

### 『エイコちゃんのプレゼント』

常磐線は平駅から北が単線だったため、汽車は四ツ倉駅で待ち合わせることが多かった。

私たちが、もの珍しそうに彼らの前に立って見ていると、その中の何人の兵士は、

「ヘイ、リトルボーイ」

等と言いながら、チョコレートやチューインガムを投げてよこしてくれた。

これに味を占めた私たちは、母にねだって赤い布切れを貰い、小枝に結んで旗を作った。誰から聞いたのか、赤い旗を振るともつとっぱい貰える、子供心に信じていた。

私たちは、進駐軍の兵士を乗せた汽車がホームに入ってくると、小さな旗を千切れるほど振って、

「チョコレート、キャンディー」と、兵士に向かって叫んだ。

何人かの兵士は、ゆっくり通過する車内から見たこともないきれいな菓子を投げてよこした。

「ターボ、ミーコ、ご飯だからオモチャ片付けなさい」

という声が聞こえて、われに返った。窓の外は、真夏の太陽が西に傾き遅い夕闇が辺りを包み始めていた。

### あとがき

昨年は、いろいろな出会いがあった。6月に勿来に嫁いだ娘に女の子が生まれ、わたしも初孫を抱くことが出来た。夏のラージボール卓球大会では、宿泊先の花巻温泉で出会ったアルゼンチンのパブロとは、メル友になった。新宿のホテルでは中国人の李さんに出会い、温かな人柄に触れることが出来た。今年も、どんな出会いがあるんだろう。“一期一会”を大切に、今年もすばらしい出会いを求めていこう！